

令和4年度第3回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

1 日 時 令和5年3月24日（金）午前10時～10時30分

2 会 場 羽曳野市役所 別館3階 会議室

3 出席者

1号委員（金融関係）	大森 健司	株式会社りそな銀行羽曳野支店 支店長
1号委員（教育関係）◎	岡島 克樹	大阪大谷大学人間社会学部人間社会学科 教授
1号委員（労働関係）	林 耕司	藤井寺公共職業安定所 所長
1号委員（産業関係）○	原 誠	羽曳野市商工会 会長
1号委員（産業関係）	山本 修	近畿日本鉄道株式会社古市駅 駅長
2号委員（市民代表）	田中 佐由美	羽曳野市更生保護女性会 会長
2号委員（市民代表）	中川 哲男	羽曳野市連合区長会 代表
3号委員（市議会議員）	金銅 宏親	羽曳野市議会 議長
3号委員（市議会議員）	外園 康裕	羽曳野市議会 副議長

◎座長 ○副座長

事務局 市長公室政策企画室 室長 塚本圭祐
 市長公室政策企画室政策推進課特命事業推進室 室長 松村光男
 特命事業推進室 主幹 山中智弘
 市長公室政策企画室政策推進課 課長補佐 尼丁香奈

4 資料

- ・資料1 第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の概要
- ・資料2 第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）
- ・資料3 今後のスケジュール（案）
- ・資料4-1 答申書（案）
- ・資料4-2 第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（答申）
- ・参考資料 パブリックコメント実施結果

5 内容

【次第1 開会】

【次第2 座長挨拶】

年度末の忙しい中、第3回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にご参集いただきお礼申し上げます。本推進会議は第3回目となるが、これまでの推進会議では、委員の皆さんの貴重なご意見をいただきながら進めることができ、座長として非常に感謝している。本日は、本年度最後の会

議となるが、よろしく願います。

約3年にわたり、世界中の人々の生活を一変させた新型コロナウイルス感染症も、弱毒化が進んでいると言われている。5月8日からは感染症法の5類に移行するとされ、また、3月13日からはマスクの着用も個人判断となった。この間、閉鎖的となっていた人々の交流も再開し始め、羽曳野市においても、本推進会議で策定を進めてきた第2期総合戦略の基に推し進めようとしている「観光によるまちづくり」が加速的に進んでいくことを期待している。

本日は、前回まで審議してきた第2期総合戦略案について、1月17日から2月16日までの期間でパブリックコメントを実施した結果について事務局から報告がある。委員の皆さんには、事前にお目通しをいただいていると思うが、本日の推進会議での意見を踏まえ、第2期総合戦略の最終案としていきたいと思う。その上で、完成した最終案については、本推進会議から市長に答申することとなるので、答申の文案についても確認をお願いする。

本日も、建設的、活発な意見を出していただき、円滑な会議の進行にご協力よろしく願います。

【次第3 議事事項】

<事務局>

ここからは議事に移る。議事進行については岡島座長に願います。

<座長>

次第3 議事事項の(1)第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について、事務局から説明を願います。

<事務局>

<「参考資料 パブリックコメント実施結果」について事務局から説明>

次に、前回の推進会議で示した「第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)」からの変更点について説明する。「資料2 第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」p23の戦略の柱2の重点項目「①歴史文化や地域特有の資産を活用した観光の振興」のKPIについて、「観光ビジターセンター来所者数」を「はびきのビジターセンター来所者数」に変更した。

変更の理由としては、本市の周辺地域の観光振興を図るため、昨年設立した大阪はびきの観光局の古市駅前ビジターセンターの名称が「はびきのビジターセンター」と決まったことから名称を変更したものであり、その他については前回からの変更はない。

<座長>

事務局からは、2点の説明があった、1点目はパブリックコメントについて、2点目はKPIの名称の変更についてである。

1点目のパブリックコメントについてだが、座長としても、数値目標やKPIは、施策や事業の進捗状況や効果を検証するための指標で、過去、現在、未来を比較するものであるため、一定の継続性が大事だと考える。そのことから、現在の指標でいいのではないかと思う。ただし、パブリックコメントでいただいた市民のご意見についても、一理あるかと思うので、いただいた意見については、担

当部局と情報を共有してもらいたい。

それでは、他にご意見がなければ、第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、市長への答申内容を取りまとめていきたい。「資料4-1 答申書(案)」について、これは、今までの推進会議の経過を踏まえて取りまとめたものであり、意見としては2点ある。

1点目は、「デジタル田園都市国家構想」の視点に立って、市民をはじめ様々な団体と連携しながら、この「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現につなげていただきたいということ。2点目は、目標達成のために適切な進捗管理を行い、その検証に基づいて効果的な施策の展開を行ってほしいということ。この2つの付帯意見をつけて市長に答申したいが、これについて何かご意見はないか。

私としては、これまでの推進会議での意見で、印象に残っているものがいくつかある。例えば、まち・ひと・しごと創生を考える上では、本人の成長を促すような教育が非常に大事だということ。子育て支援においては、資金面が大事ということ。金融機関では、コロナ禍においてマンションから戸建てに引越すための住宅ローンの申し込みが増えているということ。用途制限がない時代に建てられた工場が、立替えできずに移転していること。法制度の変更があり高齢者の雇用促進を進める必要があること。育児休業法の改正等により、共働き世帯への施策は充実してきたが、それ以外の世帯への施策を検討して、本市への子育て世代の移住促進を図ること。公園等の子どもたちの遊び場の確保や、親同士の交流の場が必要なこと。市民と市役所の信頼感の醸成の重要性。これらの意見が本推進会議で出たことを、市長に伝えたいと思っている。

それでは、改めてのご意見はないようなので、原案通り市長への答申とし、この会議後に市長に答申書をお渡しすることとする。

最後に、次第3 議事事項(2) 今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

<「資料3 今後のスケジュール(案)」について事務局から説明>

本推進会議において答申いただいた内容について、市 Web サイト等での公表を予定している。また、来年度以降の推進会議の開催については、座長と相談の上、決定することとしているので、開催する際にはよろしく願います。

<座長>

本推進会議で取りまとめた第2期総合戦略は、基本的には第1期総合戦略の内容を継承している。その意味で幅広く、一定の包括性を持っていることが特徴で、他市と比較しても不足はなく、質は確保されている。他市と比べて遜色ない内容が盛り込まれている一方で、今後はどこかのタイミングで、羽曳野市としてのまち・ひと・しごと創生総合戦略の特徴を出す必要があるのではないかとと思う。第2期総合戦略の策定後は、この方向性に従い、具体的な取り組みを随時、検討していくことが必要である。

また、国が策定した「デジタル田園都市国家構想」は、第2期総合戦略にも関係しているが、昨年の12月に閣議決定されたことから、継続してデジタルの新しい技術を活用して地域課題をどう解決していくか、市役所や住民、事業所等みんなで一緒に考えることが重要となる。これからの時代、

しっかりとしたものをもみんなで作って、市の財産としていく必要がある。引き続き、委員の皆さんには、第2期総合戦略の実現に向けて、ご協力いただきたい。

<委員>

私から、「はびきのビジターセンター」について報告したい。「はびきのビジターセンター」は、大阪はびきの観光局が運営するビジターセンターであり、3月19日にオープニングセレモニーを開催し、古市駅前にオープンした。大阪はびきの観光局は、市職員の他、吉本興業やJTB等の観光に長けた人で組織する一般財団法人である。

羽曳野市は、世界遺産である百舌鳥・古市古墳群や日本遺産で日本最古の街道である竹内街道と2つの遺産を有する。これら地域資源を踏まえ、観光情報等を発信するための拠点として、このビジターセンターが設立された。スタートしたばかりなので、地場産業の発信、観光ボランティア等の取り組みはこれからになるが、2025年の大阪・関西万博に向けて万博来場者が羽曳野に来てもらえるよう、羽曳野の良さを世界に発信する拠点としていきたい。古市駅前の一等地のビルで、1階がビジターセンター、2階に大阪はびきの観光局事務所、3階が研修所となっているので、ぜひ一度、委員の方々にも来てもらいたい。

また、羽曳野市には世界遺産、日本遺産、旧浅野家住宅に加えて、地場産業がたくさんあり、ふるさと納税も右肩上がりになっている。2025年を大きな目標とし、観光を盛り上げ、国内外から羽曳野に一人でも多く来てもらいたい。今はまだ、市民にもビジターセンターはあまり知られていないが、これからは市内外にも広がる発信力を持ってもらいたい。

世界遺産に登録されて4年になるが、今は百舌鳥古墳群を有する堺市が先行する形となっているが、今後は古市古墳群で羽曳野市と藤井寺市が協働して世界遺産を盛り上げていこうと考えている。

<委員>

近隣市や大阪市等にも情報を発信しないといけない。他の観光地でもQRコードをよく見る。

<副座長>

今回、大阪はびきの観光局の設立により観光協会は解散した。私は、観光協会の設立当初から会長として参加していたが、あくまでも羽曳野市を中心とした活動で、資金面からもあまり十分に活動できなかった。大阪はびきの観光局は、羽曳野市のみならず、南河内の総合的な観光戦略の中心となることをめざしている。

<座長>

このような未来に向けた希望がある。今後はどう情報発信していくか。DX等いろいろなものを使って広げていく。外国からのお客さんが来られても、すぐには対応できないので、練習が必要で段々慣れていくことが必要だ。最後に希望がある話ができ良かったと思う。

委員の皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

【次第4 閉会】